

「主観の集まりこそ、本当のエビデンスだ！」

～DIPEX が進化してた！～

山口久美

陽子さん

ゆきさんからの講義の予定をいただいた時には DIPEX?知らないなあと思っていました。

講義前に DIPEX サイトを見て、あ、これ知っている！と気づきました。

講義の後でもう一度サイトを確認し、Facebook のお友達のシェアで DIPEX を知ったのは、おそらく DIPEX が始まってすぐだったのだろうと思いました。

乳がんを患った知人からのシェアだったのでしょう。

1 人の人の話でも、いろいろな視点で切り分けると、人それぞれの知りたいことから検索できて、さらに、自分では思いつかない情報にもアクセスできるようになる！すごい！と思いながら、ずーっと全部を追ってしまったと記憶しています。

でも…それきりアクセスすることなく 10 年くらいたっていたということでしょうか。

コンテンツが増えていて、びっくりしました。

そして、障害分野の語りも！！

・エビデンスとナラティブって相反するもの??

今は、私の携わっている障害福祉分野でもエビデンスが重要！と言われていません。

特に、自閉症の人への支援については、最近特に目立っています。

確かに、研究から導かれたエビデンスに基づく様々な支援方法は、例えば暴れていた人を落ち着けることができたり、話せない人ともコミュニケーションできるようになったりなどなど、有効な手段です。私も、普段の仕事で、Evidence based な支援を！と言っています。

今年度、大学院生として学ぶ中で、エビデンス、EBM という言葉を、今まで以上に耳に目にするようになりました。そして、エビデンスとナラティブが相反する概念のように扱われていることも知りました。

エビデンスとナラティブは、相反するものなののでしょうか？？

エビデンスには科学的で、証明された証拠があると言われ、ナラティブは主観的で、客観的に証明される証拠はないように言われます。

エビデンスと言われていることは、ほとんどが統計的に有意であった。というだけの結果のはずです。それはつまり、「エビデンス」から外れる人（こと）が絶対にあるということです。

また、統計をどう取るか、何を見いだしたくて評価するか・・・で、見えてくる結果は違ってきます。

何も知らない人たちは、声の大きな目立つ人の言うことを信じ、それが真実であるように錯覚していく・・・。

一方ナラティブは、きわめて主観的であるが故に、とても確かな唯一無二のものだと思います。

その物語がデータベースになったら、100人100様の中に、普遍的な確かさが見えてくるのではないか、それこそが本当のエビデンスではないか、と思います。

・DIPExは発酵の壺？！

そう考えると、本当のエビデンスは、みんな違う、自分で感じ、自分で考え、自分で決める。ということだけかもしれないと思い至りました。

科学的に証明されたエビデンスを体験し、それを語るナラティブが集まったら、本当のエビデンスが生まれる・・・。

DIPExに、もっともっとたくさんのナラティブが集まり、ひとりひとりが自分のエビデンスを選び取れるようになったら、医療も福祉も・・・もっと人に優しいものになるかもしれない！

DIPExという壺のなかでナラティブが醸され、真実が醸成される・・・そんなことを夢想しながら、DIPExをじっくり眺めています。